

前期自己評価結果（自己評価書）

南アルプス市立白根御勅使中学校	平成27年8月17日（月）作成
学校長 大堀 慎司	記載者氏名 教頭 浅利 司

I 本年度の学校教育目標

- (1) 校訓 「一生懸命」 ～ 本気で、真剣に、精一杯、心を込めて ～
- (2) 目指す学校像
 - ① 生徒一人ひとりを大切にする生徒
～生徒と教師がしみじみと話すことができる学校～
 - ② 生徒が学力向上を自覚できる学校
～生徒が、わからないところを教師に質問できる学校～
 - ③ 教職員の息があっている学校
～教職員が短時間の情報交換をこまめに行う学校～
- (3) 目指す生徒像
知を磨く生徒 心を耕す生徒 体を鍛える生徒 故郷を愛する生徒
- (4) 学校教育目標 「志を持ち、道を拓く生徒」
- (5) 五本柱
 - 知力 ～知識・技能、思考力・判断力・表現力を育てる～
 - 心力 ～たくましく他を思いやるやさしい心、粘り強く取り組む強い心を育てる～
 - 体力 ～たくましく生きる健康な体を育てる～
 - 安全 ～命の大切さを考え、家族や友達に目を向けると同時に、災害に対しても自分で考えて行動できる生徒を育てる～
 - 信頼 ～生徒を中心にして、学校と家庭、地域、関係機関が連携する～

II 職員自己評価集計結果（資料1参照）と生徒によるアンケート集計結果（資料2参照）

平成27年7月に職員による自己評価と生徒へのアンケートを実施した。その集計結果は別紙資料1・2のとおりである。

III 評価と改善策

(1) 全体的な評価と改善策

本校では、昨年度までの4年間（平成23年度～26年度）、職員、生徒、保護者の評価（アンケート）項目を変えずに評価を実施してきた。学校教育目標に大きな変更点がなかったことと、年度による変化を比較・考察しやすい利点をとったためである。

本年度は、学校教育目標に変更はなかったが、職員の評価項目の見直しを行った。整理統合できる評価項目は整理統合し、本校の課題を改善していくために必要な評価項目を新たに設定した。その結果、昨年度までの37項目は、34項目となった。生徒へのアンケートは、昨年度までと同じ22項

目で実施した。保護者へのアンケートは、前年度同様、前期は実施しなかった。

職員による自己評価の結果は、A判定が33項目で、B判定（平均値が3.0未満）が1項目となった。唯一のB判定となった項目は、No.26の「生徒は、適切な言葉遣いで先生や友達と会話ができている」であった。この項目の評価も「2.9」であり、昨年度の数値よりも0.4ポイントも向上していることから、全体的に良好な結果であったと考える。

昨年度と比較できる30項目（全く同じ設問またはほぼ同様の内容の設問）で比較した場合でも、2項目だけが前年度よりも低い数値となっただけで、残りの28項目が向上しているか同数値であることから、前年度よりも良い方向に向かっていることが読み取れる。ちなみに、昨年度よりも評価数値が下がったのは、No.7（安全教育）とNo.30（家庭・地域への情報の発信）についての項目であった。このように評価が全体的に向上していく傾向は、昨年度から続いている。

一方、生徒のアンケートについては、22項目中21項目でA判定、1項目がB判定（No.18 家庭学習の習慣化）という結果が出た。昨年度は2項目でB判定が出ている上、数値でも昨年度から下がったのはわずか2項目（5%）のみであることから、生徒側も学校全体が良くなっていると感じていると思われる。

全体的には良好な評価となっているが、課題も見いだせる。決して低いわけではないが、他と比べて比較的低い評価（3.2以下）が出ている項目を拾い上げてみると、「学習指導」と、「生徒指導」に関する項目に集中する傾向が見られる。

学習指導については、「個に応じた指導」や「計画的な指導」、「家庭学習に対する指導」をより充実させたいと感じている職員が多いと思われる。これを裏付けるように、生徒のアンケートでも「No.18 毎日の家庭学習」に対する評価が、ずば抜けて低い（2.8）。「学習に意欲的に取り組んでいるか」という質問に対しても、比較的lowの数値が出ている。全国学力学習状況調査において、平均以下の点数が出ている教科があることも考えれば、学習指導に対する課題は大きいと言える。校内研究を柱として、統一的な取組を行っていきたい。

生徒指導については、「言葉づかい」「規範意識」「挨拶」などの点で課題を感じている職員が多いようである。同じ内容での生徒アンケートの結果では、どれも比較的高い数値を示していることから、生徒の気持ちを大切にしながらも、職員で基準を共有し、ブレない指導を継続していくことが必要と考える。

「学習指導」、「生徒指導」どちらの課題についても、年々評価が改善されてきているので、これまでの取組を肯定的にとらえながら、さらに改善を加えて、職員全体で粘り強く取り組んでいく。

（2）各項目の評価と改善策

評価項目 I 「学校教育目標」に関して
【自己評価】 2項目ともA判定であった。昨年度と比較して、両項目とも評価の数値が向上していることから、職員が学校目標をより意識して教育活動にあたっていると考えられる。
【改善策】

全教職員が共通認識を持ち、学校教育目標達成に向けて、日々のすべての教育活動により一層、粘り強く取り組んでいく。後期の評価では、No.2のポイントがさらに向上するよう努力する。

評価項目Ⅱ 「学校経営・学校運営」に関して

【自己評価】

8項目すべてがA判定であった。しかも評価の数値が比較的高く、望ましい教育活動が行われていると考える。特に職員の相互理解や組織的な教育活動については高い評価になっている。課題とまでは言えないが、環境整備や安全に関する項目では、他に比べて評価の数値が低い。

【改善策】

これまでの取組を引き続き行っていく。特に、全職員で共通した理解と認識をもつことと、一人ではなく組織として対応していくことを重要視する。後期の評価でも、今回並みの数値が出るように努力を継続する。

安全教育、安全対策、環境整備については、評価結果にややバラつきがあることから、まだまだ職員による取組に差があるとみられる。取組が全体のものとなるよう、職員の意識を高めるための呼びかけを積極的に行っていく。すべての職員について、この部分の評価が3.0以上になるよう努力する。

評価項目Ⅲ 「学習指導」に関して

【自己評価】

7項目すべてでA判定となった。昨年度との比較でも、数値が下がった項目はなく、全体的には良好な評価であったと言える。しかし、数値が3.1の項目や3.2の項目がいくつかあり、絶対的には決して低いわけではないが、他項目との比較の中ではやや低めの数値である。生徒へのアンケートでも、「家庭学習の習慣化」についての項目が2.8となっているほか、「学習への意欲的な取組」も3.2と他の項目と比べてやや低いことから、学習指導については、課題が残されていると判断する。比較的低い数値が出ているNo.15（評価結果を指導に生かす）、No.16（家庭学習に対する指導）、No.17（個に応じた指導）に対する取組が必要と考えられる。

【改善策】

家庭学習の充実については、昨年度の学力学習状況調査でも課題が浮き彫りになり、昨年度から自主学習ノートを提出させるなどの取組を行ってきたところである。職員評価では0.1ポイントの向上がみられたものの、生徒アンケートでは変化が見られなかったことから、昨年度からの取組を強化・継続し、生徒アンケートの数値も向上することを目指す。

個に応じた指導については、小集団を活用した授業実践が校内研究でのテーマの一つとなっていることから、これに沿って職員全体で進めていく。また、時間的に大変難しいことではあるが、学習が遅れがちな生徒を対象に、課外補習をできるだけ設定する。

評価結果を指導に生かすことについては、職員会議・校内研究会での研修を行いその意義と方法

について意識と技術力を高める。

なお、本年度初めて評価項目化したNo.13の「言語活動の積極的な取り入れ」については、3.3の数値となったが、校内研究でも中心的なテーマに据えていることから、さらに高い数値にできるよう努力を重ねる。

評価項目Ⅳ 「生徒指導」に関して

【自己評価】

11項目中、1項目がB判定で、残り10項目がA判定であった。全体的には良好であると判断できる。

B判定となった項目はNo.26の「生徒は適切な言葉づかいができているか」という項目で、ここ数年来B判定が続いている項目である。とは言え、昨年度の2.5から大きくポイントが伸びていることから、改善されていると考えられる。生徒アンケートでも、0.1ポイントの向上がみられた。

昨年度までの数年来A判定とならなかった「身なりなどのルールを守って生活できているか」をきく項目は、今回は初めてA判定となった。その場その場で指導していく粘り強い取り組みが成果を表してきたと考える。

上記以外の項目についても、比較できるすべての項目で昨年度からの向上が認められるので、生徒指導に関しては、全体として望ましい方向に向かっていると思われる。

【改善策】

全体的には良い評価となっているので、これまで取り組んできた内容を、いっそう徹底して進めていく。

共通理解に基づく組織的な取組や対応が肝要と考えるので、わかっていると思われることも再度確認する機会を設け、問題が生じた場合には、できるだけ早い対応を行う。

生徒に対しては、一人ひとりを大切にして、個に応じた指導を心掛ける。スクールカウンセラーや外部機関との連携も必要に応じて取り入れる。

「言葉づかい」、「身なり」、「挨拶励行」などの指導は、その場その場で行うことを大切にする。これらの項目については、生徒アンケートの結果では、比較的高い数値を示していることから、生徒の気持ちを大切にしながらも、職員で基準を共有し、ブレない指導を継続していくことが必要と考える。

後期の評価では、すべての項目でA判定となるように取り組んでいく。

評価項目Ⅴ 「家庭・地域との連携」に関して

【自己評価】

3項目すべてにおいてA判定となった。職員が保護者や地域の願いに誠意をもって応えていこうとする姿勢がみられる。

しかし、No.30の「学校の方針や様子をわかりやすく伝える」という項目は、3.0の評価であ

るので、A判定とはいえ課題があると考えてよいかもしれない。各種便りやホームページでの情報発信に、より丁寧に取り組む必要があると思われる。

【改善策】

保護者の願いがどのようなものであるかを把握するには、職員が日頃から保護者との情報交換を密にしていく心掛けが必要である。これまでも心掛けてきたところであるが、学校での生徒の様子を、電話や家庭訪問でこまめに説明していくようにする。

地域からの声は、様々な形で入ってくるので、できるだけ職員全体で共有し、応えられるものに対しては、素早く応えていく。

各種便りについては、生徒の姿が見えやすく、こちらの意図が簡潔に伝えられるものを心掛けて発行する。ホームページについては、できるだけこまめに更新していくと同時に、必要な様式がダウンロードできるようにするなど、使いやすいものになるように改善していく。

評価項目VI 「学校の特徴」に関して

【自己評価】

3項目すべてにおいてA判定となった。

昨年度までB判定となっていたNo.37の「挨拶の励行」についても、今回はA判定となった。数値的にも下がる傾向が続いていただけに、今回の改善は評価できる。

部活動に関する評価は、0.3ポイント向上しており、大きく評価が上がった。生徒アンケートにおいても向上がみられることから、これも成果が上がったと考える。

「紅タイムの充実」については、職員の評価数値は昨年度と同じであるが、生徒のアンケートは0.1ポイント向上している。まずまずの結果であると考ええる。

【改善策】

全体的に良好な評価となっているので、今後もこれまでの取組を継続させていく。

部活動については、生徒のアンケートで陸上部や男子バスケット部を増設してほしいという要望が複数あったが、学校規模・職員数の観点から、実現するのは困難と思われる。既存の部の中で、充実した活動ができるよう指導していきたい。

「紅タイム」の取組については、朝の読書が定着し、全クラスとも10分間を静かに集中した時間としている。朝から落ち着いた雰囲気を作り出すことにもつながっているため、今後も丁寧な指導を継続していく。

挨拶については、生徒会の重点活動としても取り上げており、生徒たちの自然な挨拶が身に付きつつある。力を入れて取組を継続させていきたい。